

テーマ名称	担任者氏名	開講形態	使用言語
政治過程論	安中 進	②	日本語

	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ・Ⅲ
授業概要	本ゼミナールは、政治過程論を主な内容としているが、計量的な手法を主に用いて政治経済現象を分析したい学生を広く受け入れる。分析する対象は、一般的な政治過程論の範疇と考えられる政党や政治家、投票行動や選挙制度はもちろん、社会福祉、安全保障、環境問題、教育といったように、政治過程が関連すると考えられる問題であれば分析の対象として良い。また、古今東西問わず、世界中のあらゆる地域と時代を対象にしても良く、国際比較も歓迎する。 本ゼミナールⅠでは、こうした幅広い対象を分析するにあたり必要となる基礎的な知識や実践的な計量分析の手法を身に着ける。そのため、可能であれば基礎的な計量分析の知識をすでに理解しているか、本ゼミナールと平行して学ぶのが望ましい。ただし、知識の多寡は必ずしも問わないため、関心とやる気があれば受け入れる用意はある。	本ゼミナールは、政治過程論を主な内容としているが、計量的な手法を主に用いて政治経済現象を分析したい学生を広く受け入れる。分析する対象は、一般的な政治過程論の範疇と考えられる政党や政治家、投票行動や選挙制度はもちろん、社会福祉、安全保障、環境問題、教育といったように、政治過程が関連すると考えられる問題であれば分析の対象として良い。また、古今東西問わず、世界中のあらゆる地域と時代を対象にしても良く、国際比較も歓迎する。 本ゼミナールⅡ・Ⅲでは、基礎的な知識を学んだ上で、論文を執筆するにあたり必要な専門的知識を習得する。各自の関心に従い、専門書や学術論文を読み込み、先行研究を把握した上で、その問題点を見付け出す。さらに、実証的な分析を行うのに必要な資料やデータを集め、自身の研究の進捗状況を報告し、論文執筆を行う。
授業の到達目標	実証的・計量的分析の基本を押さえる 専門知識の基礎を身に着ける 政治経済現象に対する自身の問題意識を見付ける 論文執筆に必要な基礎的能力を養う	自身の問題関心に関連する先行研究を整理し、問題を見付け出す 実証的・計量的分析の実践ができるようになる 論文を完成させる 学会報告や専門誌への投稿ができればということなし
教科書・参考文献	教科書：久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣 中室牧子・津川友介（2017）『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社 参考書：浅野正彦・矢内勇生（2018）『Rによる計量政治学』オーム社	教科書は特に指定しない。各自の関心に応じて、教員の薦めを参考に文献を選び、その内容を報告してもらう 参考書：星野匡郎・田中久稔・北川梨津（2023）『Rによる実証分析(第2版) —回帰分析から因果分析へ—』オーム社

成績評価方法 (評価基準・割合)	報告と議論への参加 100%	報告と議論への参加 100% 後期は報告と議論への参加 50%と卒業論文執筆 50%
備考・関連 URL 等	【履修が望まれる科目】政治分析 A もしくは B	【履修が望まれる科目】政治分析 A もしくは B